

# 広島別院だより

Vol.54  
秋号

真宗大谷派（東本願寺）  
広島別院教化委員会 発行

## 秋彼岸会が勤まる

九月二十四日に広島別院明信院にて秋彼岸会が勤まりました。講師は谷川修眞氏（東白島町圓光寺）です。以下、抄録です。

身近な方、親しい方の死をどう受け止めるか、受け止め方に三つあると思います。

一番目は、死んだらまた会えるということです。ある方が「死ぬのは怖くない」と言われたので理由を聞くと、この方は三十年以上前に十八歳の娘さんを交通事故で亡くした方ですが、「死んだらまた娘と会えるんだ」と私は信じている。娘と会った時に、娘に『お母さん頑張ったよ』と言えるような生き方をしたい」と話されました。その方は子供を失った親の会であるとか、一人暮らしのお年寄りが集まって食事をする会の世話など、いろんな活動をされています。亡くなられた方は生きている私たちを支えることもあるんじゃないかと思うんです。

二番目は人間は必ず死ぬ、無常だと悟ることです。しかし悟ったら親しい人が死んでも悲しくも寂しくもないというのはちょっとどうかと感じます。ある方はご主人を亡くされたんですが、その方の



谷川 修眞 氏

話を聞いていて、もし悲しみが消える薬があるなら飲むだろうかと思ったので、「悲しみがなくなる薬があったら飲みますか」と尋ねたら、その方はしばらく考えて「たぶん飲まないと思います。悲しみがなくなるということは主人のことを忘れることですから」と答えられたんです。

身近な方が亡くなると、悲しくて涙が出たり、寂しく思うのが人間らしさです。だからこそ、死に直面するといろいろと考えるわけです。亡くなった方からの贈り物とか、涙を通して見えてくる世界があると聞きました。

三番目ですが、今年ブラジルで開かれた世界同朋大会で、大谷大学のマイケル・コンウェイ先生が講演され、「無量寿の功德」ということを話されたんです。コンウェイ先生はアメリカのシカゴ生まれで、家がカトリックなので、生まれてすぐに洗礼を受けられています。

お姉さんがアルコール依存症になり、三十六歳で亡くなられたんですが、コンウェイ先生自身も依存症になったそうです。その後、たまたまシカゴ仏教会というお寺の前を通りかかって、お寺の中に入り、そうして親鸞聖人の教えに出会ったと話されました。

講演の中で、「もしも姉がアルコール依存症にならなかったら、自分は念仏の教えに出会っていなかった。姉は私を導いてくださった菩薩、正定聚の菩薩だ」と言われました。このようにいただけることが無量寿の功德です。

つらいことがあって、そのことを無量寿の功德だといいただこうと簡単に思えるものではありません

ん。皆さんも、苦しくて目の前が真っ暗になり、何も考えられないけど、いろんな人との出会いや出来事を通して、「あの時のおかげだ」といただけるようになったことがあると思います。そのようにいただけるまでには長い時間がかかるんです。阪神大震災の時に大学生で、その後、進路を変更して看護師として働く女性が、「死は納得するものではなく、ただ受け入れるしかないもの。震災がなければ選ばなかった人生を歩んでいる。でも道はこれでよかったんだ」と言われたそうです。苦しい時にも道はあります。その道を私が歩めるかどうか。長々と話を聞いていただきありがとうございます。

## ご参拝ありがとうございました



九月十二日に浄土真宗本願寺派 安芸教区 山東東組の坊主会様が広島別院に団体参拝されました。広島別院の歴史や再建について、泉原寛康輪番がお話しました。

## 本願寺の歴史 その二

## 覚信尼 ①

(一二二四～一二八三)

親鸞聖人には妻恵信尼との間に六人の子(七人とも伝えられる)がいました。その末娘が覚信尼です。聖人の晩年、身の回りの世話や葬儀・埋葬に至るまでの一切を取り仕切り、後の本願寺の礎を築いた人です。

覚信尼は親鸞聖人五十二才の時に生まれ、幼少期を関東で過ごしました。おそらくは関東の門弟たちにも可愛がれ、このつながりが後の覚信尼の生涯と本願寺創立に大きく関わっています。

覚信尼は親鸞聖人帰洛の時、共に京都に移りました。やがて成長した覚信尼は日野広綱と結婚します。広綱は親鸞聖人の伯父にあたる日野範綱の孫であり、覚信尼と広綱は又従兄弟になります。二人は一男(覚恵)一女(光玉尼)を授かるのですが、幸せな暮らしも束の間、広綱は亡くなってしまいます。夫との死別後、覚信尼は聖人を頼り、共に暮らし始めました。おそらく晩年の聖人の身の回りのお世話をされていたでしょう。

## 12月2日(水)・3日(木)報恩講

【講師】 安本 浩樹 氏 (安芸北組 専光寺)

【日程】 2日(水) 14:00～勤行と法話 16:30～御伝鈔拝読

3日(木) 8:00～勤行と法話 10:00～勤行と法話

親鸞聖人のご祥月令日を縁としてお勤まりになる浄土真宗で最も大切な法要です。お誘いあわせの上、お参りください。



## 12月24日(木)仏教入門講座 (第4シーズン)

【講師】 ましろよしまろ 真城義麿 先生

【日程】 毎回 13:30～16:00 【会費】 500 円

〈日常生活の様々な疑問を仏教に学ぶ講座です。ぜひご参加ください。〉



## 毎月5日 定例法話 (ご命日の集い)

【講師】 県内僧侶(月替わり) 【日程】 14:00～勤行と法話(15:00 終了予定)

〈広島別院開基 教如上人の御命日(毎月5日)に法話会があります。〉

## 道場樹【編集室より】

投資詐欺、偽警察詐欺、買取詐欺……。毎日のように報道される特殊詐欺事件について誰もが騙される危険性があるというが、私には、自分だけは大丈夫という認識がある。

最近、世間を騒がせたカルト宗教団体の問題をあたかも批判するかのような本を購入した。心理学を軸にした内容にどんどん引き込まれ、読み終わる頃には付箋だらけになっていた。しかし、最後になって分かったことだが、著者は件の宗教団体の現役信者であり、出版社もその団体の影がちらつく。私は頭が真っ白になり、しばらく全身から力が抜けてしまうようだった。あらためて読み返してみると、確かに件の宗教団体の名は一切出てこない。これは一体……。その宗教団体が自浄作用を持っているアピールか、もしくはもっとと巧妙な心理誘導なのか。昔こんな話を聞いた。人を騙そうとしている者にとっては、世間の人たちの顔はみんな間抜けに見える。今回、私もそんな世間の一人であることをあらためて認識させられた。

(H・N)

